



**(2) 栃木県大田原市（市民グループ・市議）**

一般廃棄物焼却炉周辺地域でやや広めのエリアです。12年目の調査となります。その間に裁判も起きました。

**(3) 埼玉県寄居町1：彩の国資源循環工場敷地内（市民グループ・生活クラブ生協熊谷ブロック）**

彩の国資源循環工場は、埼玉県が整備した廃棄物処理施設及び最終処分場からなる大規模工業団地です。市民グループは稼働前から調査を始めていました。アカマツによる調査ですが、クロマツに換算した値で2012年度には環境基準を上回る高濃度となっていることが判明しました。

**(4) 埼玉県寄居町2：彩の国資源循環工場周辺地域：寄居町・小川町（市民グループ・生活クラブ生協熊谷ブロック）**

1の敷地内と比較するために行っている調査です。毎回、敷地内より濃度は低く維持されていますが、2012年度は前回（2009年度）に比べて約3倍に上昇しました。

**(5) 埼玉県所沢市1：東部清掃工場周辺地域（市民グループ）**

2010年度、廃プラ焼却開始前に事前調査を行い、今回公表するデータは(6)の所沢市2の結果とともに、2013年5月に行った最新調査結果です。廃プラ焼却開始後に濃度が上昇していることが明らかとなりました。

**(6) 埼玉県所沢市2：対照地域として所沢市山口地区（市民グループ）**

東部清掃工場から5～8km離れ、周辺に発生源のない地域を比較対照地域として調査しています。廃プラ焼却開始前には両者の差が約2.5倍ありましたが、本格実施後には、対照地域の濃度も上昇し、差もほぼ2倍となっていました。この間、東部清掃工場の廃プラ混入率は10%程度増加し20%を超えています。

**(7) 千葉県野田市1：産廃焼却炉直近（市民グループ・市議）**

市内にある産業廃棄物焼却炉のごく近傍の住宅の松葉を採取しました。煙突が低く、焼却炉のプラントとともに、隣接する工場の建物や高木の樹林地があるため、拡散が阻害されている可能性が疑われます。周辺では健康被害も多発しています。

**(8) 千葉県野田市2：比較対照地域（市民グループ・市議）**

1との比較を行うためにターゲットとなる産廃焼却炉から6～7km離れた地域から採取しましたが、1の2倍の濃度となり、現地調査を行ったところ、周辺には別の産廃や野焼きが繰り返し行われている実態が明らかになりました。

**(9) 神奈川県相模原市（市民グループ）**

対象地域は神奈川県内でも産廃焼却施設が集中するエリアです。1999～2000年度、2002～2003年度、その後、2006年度に調査を行い、今回は6年目の調査となりました。調査スタート時には非常に高濃度で環境基準を超える値でしたが、松葉調査の結果を受けて市民グループが積極的に活動を展開した結果、現状では当初の1/10ほどまで改善されています。

**(10) 愛知県春日井市（市民グループ）**

春日井市の市民グループが地域の中学校の科学部の生徒を指導して継続的な調査を行っています。金属類の調査もダイオキシンの調査の間に実施しています。近傍に発生源はなく、住宅地の状況を示す結果となっています。

**(11) 福岡県宗像市（宗像市役所）**

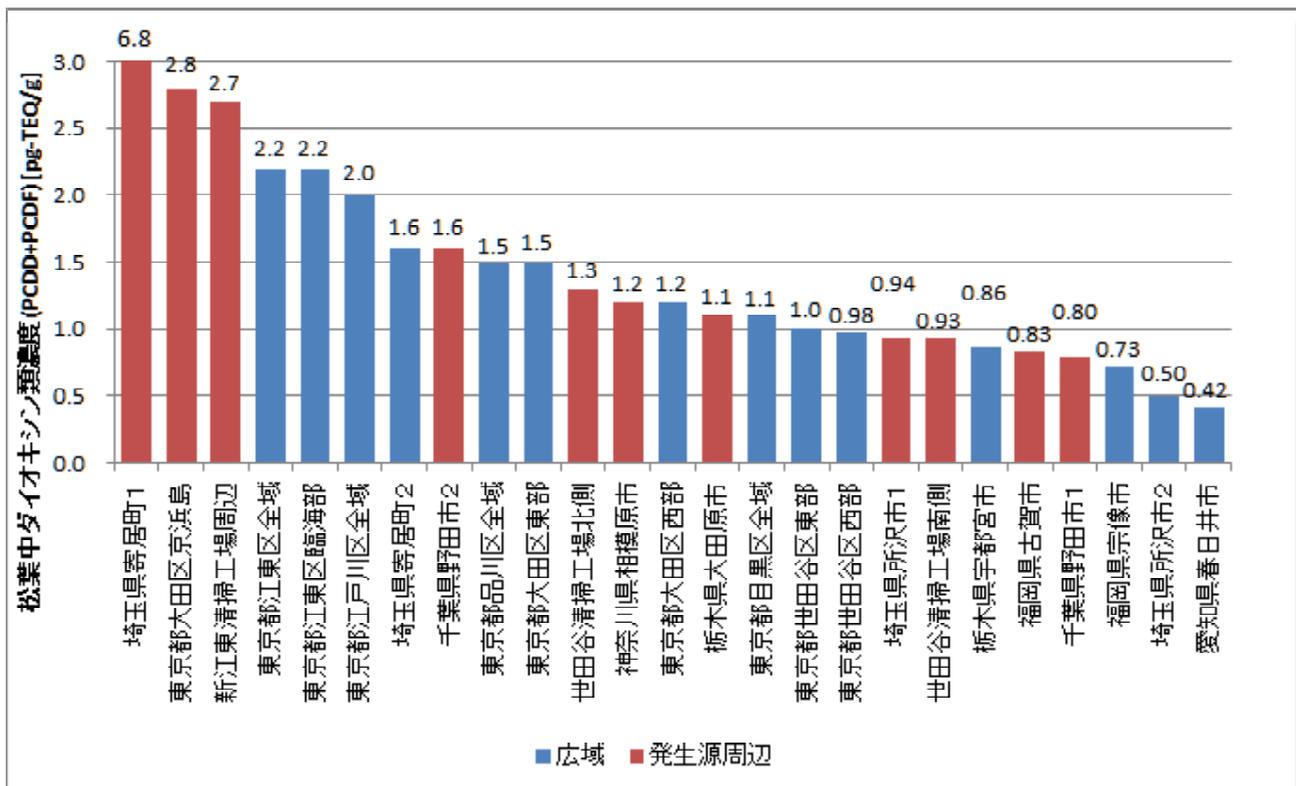
2002年度にスタートし、11年目の調査となります。市民の要望で市内の小中学校校庭に観測用のクロマツを植樹しそれを毎年市役所で採取して測定しています。市内の一般廃棄物焼却炉はガス化熔融炉で、焼却炉周辺の調査は市民が行っていましたが、濃度が安定したため全市を対象とした校庭のマツによる調査が市によって継続されています。マツの濃度は比較的長く維持されています。

## (12) 福岡県古賀市（市民グループ）

古賀市の一般廃棄物焼却施設（ガス化溶融炉）の近傍について市民グループが継続的な調査を行っています。2001 年度からスタートし、12 年目の調査となります。最初はダイオキシンでスタートしましたが、金属類と PAH（多環芳香族炭化水素類）については 2006 年度から、PBDE（ポリ臭素化ジフェニルエーテル：難燃剤）については 2008 年度から継続的に調査を行っています。

### ◆さいごに

この度は、結果の公表をご了承頂き、ありがとうございました。下の図は、2012 年度（所沢市については最新の 2013 年度）の結果を高い順に並べたものです。



参考図2：2012年度 松葉ダイオキシン調査に参加した各地の結果（濃度順）

注）クロマト換算値 PCDD + PCDF の毒性等量濃度 WHO 方式による評価

全国の調査結果と比較することで、それぞれの地域の汚染状況がよりよく理解できるのではないのでしょうか。最も高濃度となったのは埼玉県寄居町の 6.8pg-TEQ/g で、Co-PCB を加えるまでもなく、環境基準を超過しています。第二位は大田区京浜島で大田清掃工場の近傍、第三位は江東区の新江東清掃工場周辺でした。発生源周辺ではない江東区全域や江東区臨海部、江戸川区などがそれに続き、都内 23 区の東部地域と臨海部の大気の状態が悪化していることがわかりました。

市民参加によるダイオキシン監視活動の成果を、皆様の地域の環境問題の解決に役立てて頂ければ幸いです。